

市電からバスへの移行率

市電を廃止すると交通渋滞が更に酷くなる

平成22年6月12日
仙台高速市電研究会

■ 昭和50年度 仙台市電 市電営業最終年度 通年(人) 12,720,000 1日(人) 34,849

- ・ 仙台市電は昭和51年3月31日を以て廃止となった。この約3万5000人の利用者はどこに行ったのか？
- ・ 仙台市の目論見通りであるなら、この約3万5000人は市営バスに移っているはずである。
- ・ そうであるなら、市営バスの利用者数が約3万5000人増えていないと行けない。

■ 昭和50年度 仙台市営バス 市電と共存 通年(人) 102,108,852 1日(人) 279,750

■ 昭和51年度 仙台市営バス 市営バスのみ 通年(人) 108,311,371 1日(人) 296,743

仙台市営バス 増分 通年(人) 6,202,519 1日(人) 16,993

・ 市営バスへの移行率..... 49%

- ・ 市電廃止後、仙台市営バスは約1万7000人しか増えていない。
- ・ この増分が総て市電からの移行客だとすると、
市営バスへの移行率は、16,993人／34,848人で、49%しかない。
(岐阜美濃町線の例では60%)

- ・ この時期仙台は年々人口増の時期であり、市営バスの増分は人口増による分も含んだものであるから、市営バスへの実質の移行率はこれより低いはず。
- ・ 移行しなかった分はどこへ行ったのか？ 詰まり、市バスに切り替えなかった51%の利用客は何を利用するようになったのか？
- ・ 大部分はクルマ。(他は宮城交通、仙石線など)
- ・ そのクルマは旧市電通りを中心とした街路に殺到。
- ・ その台数は約1万7000台。
- ・ 渋滞が更に酷くなるわけである。
- ・ 「市電は交通渋滞の原因、市電を廃止すれば車の流れがスムーズになり、渋滞が減る」と喧伝されていたが、実際は全く逆であった。
- ・ 市電を廃止したことで、渋滞を悪化させた。(行政もマスコミも学者も検証せず、類被り。)
- ・ 一般市民は、市電なら乗るがバスには乗らないということ。
- ・ 近年も地方鉄道が次々廃止されている。廃止の際の謳い文句は大概、「バスに切り替えれば経費削減になり又本数も増やせるから便利になる」と言うもの。相変わらず喧伝されるが、実際には客離れを引き起こし、程なくしてバス路線自体が衰退し鉄道時代よりも不便になる。
- ・ 「交通政策に科学無し。」